

令和4年度 陵墓関係調査報告

陵墓調査室

調査の概要

当調査室では、「周知の遺跡」となっている陵墓において、保全・整備のための土木工事などを実施するにあたり、施工区域・箇所における遺構・遺物の有無を確認して、工法の決定に資する等のために事前調査・立会調査を実施している。また、「周知の遺跡」外であっても必要に応じて念のため立会を行うことがある。令和4年度も各陵墓監区事務所や京都事務所などの関係機関、さらには地元の教育委員会とも協力して調査を行った。以下、その概要を記すことにする。

なお、令和4年度には所蔵機関の協力のもと、出土品関連資料調査や関係文献調査も実施した。

〔事前調査〕1件

1 畝傍陵墓監区事務所（奈良県橿原市大久保町）建替工事予定区域事前調査

畝傍監区、11月～12月実施、担当：横田真吾・田中詢弥

工事予定区域に5箇所のトレンチを設定して調査を行った。規模は、第1・2トレンチ（5×3m、深さ約1.5m（断割箇所2.2m）、第3トレンチ（10×2m、深さ約1.5m）、第4・5トレンチ（3×3m、深さ約1.1m）である。

調査の結果、いずれのトレンチでも近世の水田以外に遺構は確認できなかった。トレンチの土層は、第1から第5トレンチまでほぼ共通している。上から表土、現代盛土、近代造成土の順となっている。

第1～5トレンチでは、近代造成土の下に、近世からの水田と考えられる面を確認している。近世水田面の断割を実施した第2トレンチでは、近世水田面の下に中世の遺物を含む包含層（中世水田か）が地表下約2mまで存在する。その下には、佐倉川の洪水堆積物と考えられる砂礫を含む層があり、この層を掘ると水が湧く状況であった。

今回の調査による出土遺物は、その多くが第1～第3トレンチの3層より出土したものである。出土した遺物には、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、瓦などがある。

詳細な報告文は後掲する。

〔立会調査〕18件

1 桃山陵墓地（京都府京都市伏見区古城山）間参道手摺設置工事に伴う立会調査

桃山監区、10月実施、担当：高比良裕喜、小倉卓也

桃山陵と桃山東陵間の参道手摺設置箇所の掘削に立ち会った。約140mの間に98箇所得手摺基礎埋設のための掘削を行った。確認された土層は、①表土、②排水管施工時の埋土、③参道の造成土、④桃山陵墓地の造成土、⑤伏見城の造成土、⑥地山であった。とくに遺構は確認されていないが、2箇所で伏見城のものと思われる瓦片が計6点出土した。

2 醍醐天皇 後山科陵（京都府京都市伏見区醍醐古道町）鳥居改築工事に伴う立会調査

桃山監区、2～3月実施、担当：三井朋宏、竹島大地

鳥居基礎設置箇所の掘削に立ち会った。確認された土層は、上から表土、用途不明の溝埋土（礫を大量に投入しており、近現代の施工か）、既存鳥居施工時の埋め戻し土、乳褐色粘質土、地山と考えられる堅緻な青灰色土である。遺構・遺物は確認されなかった。

3 後嵯峨天皇 嵯峨南陵（京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 天龍寺内）止水栓修繕工事に伴う立会調査

桃山監区、2月実施、担当：高濱繁伸、田邊雄貴

止水栓修繕箇所掘削に立ち会った。確認された土層は、上から明褐色土、暗褐色土であり、どちらも既存の止水栓設置時の埋土と考えられる。遺構・遺物は確認されなかった。

4 大亀谷陵墓参考地（京都府京都市伏見区深草大亀谷古御香町）外構柵の一部修繕工事に伴う立会

桃山監区、10月実施、担当：小倉卓也

外構柵修繕に伴う基礎埋設箇所掘削に立ち会った。確認された土層は、既存外構柵設置時の埋土であった。遺構・遺物は確認されなかった。

なお、本立会箇所は、周知の埋蔵文化財包蔵地外で、かつ当庁主体の工事ではなかったが（物損事故による補償工事）、念のため掘削時に立ち会ったものである。

5 桃山陵墓地（京都府京都市伏見区桃山町三河）内の国有財産使用物件の使用形態変更に伴う立会

桃山監区、3月実施、担当：坂本博史

乃木神社前公衆トイレの電気引込柱移設箇所掘削に立ち会った。確認された土層は、上から表土、近年の盛土（明橙色礫混砂質土、灰色粘質土）、地山（青灰色粘質土）であった。遺構・遺物は確認されなかった。

なお、本事業は京都市の事業であるため、立会調査自体は京都市が実施した。陵墓地内であるため、念のため立ち会ったものである。

6 雅慶王墓（京都府京都市伏見区醍醐川久保町）車止め修繕工事に伴う立会

桃山監区、3月実施、担当：三井朋宏

車止め修繕箇所掘削に立ち会った。確認された土層は、既存車止め設置時の埋土のみであった。遺構・遺物は確認されなかった。

なお、本立会箇所は、周知の埋蔵文化財包蔵地外で、かつ当庁主体の工事ではないが（物損事故による補償工事）、念のため掘削時に立ち会ったものである。

7 泉山陵墓地（京都府京都市東山区今熊野泉山町）外構柵整備工事に伴う立会調査

月輪監区、12月実施、担当：清水謙太、森沢俊哉

外構柵整備箇所（総延長195mのうち格子門扉設置3箇所と土留工10m）掘削に立ち会った。土層として、表土、攪乱土、地山を確認した。遺構・遺物は確認されなかった。

8 後白河天皇 法住寺陵（京都府京都市東山区三十三間堂廻り）支柱取設工事に伴う立会調査

月輪監区、11月実施、担当：清水謙太、児嶋志音

支柱取設箇所掘削に立ち会った。土層として、表土、攪乱土、地山を確認した。遺構は確認されなかった。遺物は瓦、磁器片が確認された。

9 磐衝別命墓（石川県羽咋市川原町）防火水槽撤去工事に伴う立会

月輪監区、10月実施、担当：加藤一郎、長濱匡洋、田中惇也

防火水槽撤去箇所掘削に立ち会った。確認された土層は、上から防火水槽設置時の碎石、暗灰色砂（池の埋土）、砂とシルトの互層状堆積（池の堆積土）、暗青灰色砂（地山）である。遺構・遺物は確認されなかった。

なお、本調査箇所は、羽咋市の工事であるため、立会調査の主体は羽咋市であるが、周知の埋蔵文化財包蔵地内かつ古代高塚式でもあるため、掘削中に当庁職員が念のため立ち会ったものである。

10 高倉天皇 後清閑寺陵（京都府京都市東山区清閑寺歌ノ中山町 清閑寺境内）斜面地崩落復旧工事に伴う立会調査

月輪監区、12～3月実施、担当：田中詢弥、長濱匡洋、森沢俊哉

令和3年8月の大雨により崩落した斜面地崩落復旧工事箇所掘削に立ち会った。掘削箇所では、表土、堆積土、地山（岩盤）を確認したが明確な遺構は検出されなかった。表土下の堆積層は、ビニール袋といっ

た現代のものとともに瓦器片や土師皿等が出土したため、山頂方向（西側）からの流土と考えられる。堆積層は、礫を含まない締まりのない層、径3~4 cmの礫を含む締まりのない層、径4~5 cmの礫を含む締まりのない層に分けられる。地山はかたい岩盤層で、北西から南東に向かって傾斜している。掘削範囲の北東側では階段の袖石が地表上と異なる角度で地中へと続いていることを確認した。遺物は、礫を含まない締まりのない層と径3~4 cmの礫を含む締まりのない層より出土している。瓦器、陶器、磁器、土師器など、ビニール袋3袋分がある。

詳細については後掲する。

11 孝元天皇 剣池嶋上陵（奈良県橿原市石川町）境界標識埋設替工事に伴う立会調査

畝傍監区、9月実施、担当：池田直樹、香月 渉

当陵南側駐車場の界12、13、17号の埋設替箇所掘削と埋め戻しに立ち会った。どの箇所においても、表土下から後世の造成土層が検出された。築造当初の盛土や地山は検出されていない。遺構・遺物は確認されなかった。

12 安寧天皇 畝傍山西南御陰井上陵（奈良県橿原市吉田町）鳥居改築工事に伴う立会調査

畝傍監区、2月実施、担当：池田直樹、香月 渉

鳥居設置箇所掘削に立ち会った。北側基礎と南側基礎の2箇所を掘削した。土層は、表土下には前回の鳥居改築工事の際の埋め戻し土がみられ、前回取り外した鳥居の基礎の破片が混入していた。遺構・遺物は確認されなかった。

13 皇后神功皇后 狭城盾列池上陵ほか境界標識埋設替工事に伴う立会調査

〈皇后神功皇后 狭城盾列池上陵（奈良県奈良市山陵町）〉畝傍監区、3月実施、担当：松村一成、芳村勇一
外堤北西側の界38号と界39号の2箇所の掘削に立ち会った。表土下には、後世の工事に伴う造成土、外堤の盛土と考えられる層が確認されたが、掘削範囲が狭いため、明確な遺構面としては認識することができなかった。遺物は確認されなかった。

〈平城天皇 楊梅陵（奈良県奈良市佐紀町）〉畝傍監区、3月実施、担当：松村一成、芳村勇一

参道西側の界4号の掘削に立ち会った。表土下には、以前の境界標識を埋設した際の埋め戻し土と考えられる層が確認された。遺構・遺物は確認されなかった。

14 平城天皇 楊梅陵（奈良県奈良市佐紀町）コンクリートブロック塀改修その他工事に伴う立会調査

畝傍監区、11~3月実施、担当：有馬 伸、田中詢弥、中野裕樹、芳村勇一

外周境界線沿いのフェンス基礎補強・暗渠排水管敷設箇所の掘削に立ち会った。土層は、1層：表土、2層：既存コンクリートブロック塀基礎掘方埋土など、近現代の陵墓工事に伴う土層、3層：小土堤の盛土など幕末の修陵に伴う土層、4層：幕末以前に形成されたと判断される土層、5層：地山層に大別される。4層としたもののうち、西側の平城宮北辺大垣推定線付近では、土手状に高まる土層を確認した。固く締まっていたが、厚さ数 cmの土層が何層も重なるという版築の特徴は見られなかった。大垣に伴うものであるとの確証は得られなかったが、大垣推定線上でもあり、関連するものである可能性がある。また、北東にあたる境界標識第35号付近では、地山層に掘り込まれた不明遺構を2箇所確認した。埋土には多量の遺物が含まれており、遺物整理の結果によっては構築時期を特定できる可能性がある。掘削箇所からは多くの瓦が出土しているが、いずれも破片であり、至近に瓦葺の建物が存在したことを示すような様相ではない。

本陵は古墳時代の前方後円墳である市庭古墳の墳丘の一部であることが指摘されているが、市庭古墳に伴うと思われる出土品は皆無で、掘削箇所の土層も確実に古墳の盛土と判断されるものは確認できていない。遺物は、瓦片、土師器片、須恵器片、陶器片、磁器片など、ビニール袋36袋分が確認された。

本報告については、本誌第76号〔陵墓篇〕に掲載予定である。

15 越知陵墓参考地（高知県高岡郡越知町大字越知）駒形制札改築工事に伴う立会調査

古市監区、3月実施、担当：土屋隆史、宮田一弘、濱田武典、高橋 歩

参道の階段下にある駒形制札設置箇所掘削に立ち会った。表土下に厚さ約40 cmの基礎コンクリートブ

ロックが確認されたため、掘削箇所を駒形制札設置用の孔の部分（縦14cm、横14cm、深さ60cm）に変更した。掘削箇所の最深部は自然丘陵の表土面にあたると考えられる。最深部の近くからは、銅銭が出土した。詳細については後掲する。

16 推古天皇 磯長山田陵（大阪府南河内郡太子町）境界標識埋設替工事に伴う立会調査

古市監区、12月実施、担当：濱田武典、森田雅也

境界標識埋設替箇所の掘削と埋め戻しに立ち会った。土層としては、表土、近代以降の層、攪乱層（平成25年度 推古天皇陵防災整備工事の際の埋め戻し土）が確認された。遺構・遺物は確認されなかった。

17 清寧天皇 河内坂門原陵（大阪府羽曳野市西浦六丁目）入水管改修工事に伴う立会調査

古市監区、2～3月実施、担当：須藤周太、玉野裕弥

前方部西側堤防の南側入水管付近の改修箇所の掘削に立ち会った。土層としては、表土、攪乱層、地山を確認した。遺構・遺物は確認されなかった。

18 磯長部事務所（大阪府南河内郡太子町）漏水修繕工事に伴う立会調査

古市監区、3月実施、担当：濱田武典、森田雅也

漏水修繕工事箇所の掘削に立ち会った。土層としては、小石混じりの粘り気のない茶褐色砂質土を確認したが、『昭和49年度磯長部事務所新築工事』の際の掘削・埋め戻し土と考えられる。遺構・遺物は確認されなかった。

〔出土品関連資料調査〕2件

書陵部で所蔵している出土品に関する調査を、所蔵者の協力を得て、下記2機関で行った。

1 東京国立博物館（東京都台東区）

10月実施、担当：横田真吾

同博物館が所蔵する群馬県太田市二ツ山古墳出土の須恵器、鉄製工具・武器・馬具について、熟覧・実測・写真撮影・蛍光X線分析を行った。

2 慶應義塾大学（東京都港区）

10月実施、担当：横田真吾

同大学が所蔵する群馬県太田市二ツ山古墳出土の須恵器について、熟覧・実測・写真撮影を行った。

〔関係文献調査〕1件

陵墓に関する文献調査を、所蔵者の協力を得て、下記機関で行った。

1 京都国立博物館（京都府京都市）

11月実施、担当：的場匠平

同博物館が所蔵する「孝明天皇御凶事式」の熟覧と写真撮影を行った。 (清喜裕二)